

平成21年度 事業報告書

平成21年度 実施事業

日本協会のビジョンである「ラグビー競技が誰からも愛され、親しまれ、楽しめる人気の高いスポーツにする」ことの実現を目指して、各関係方面のご支援・ご協力のもと、各大会および各事業を実施した。

国内大会関係

1. 第51回 YC&AC JAPAN SEVENS

4月5日(日) YC&AC グランド

優勝:YC&AC(2連覇)

2. 第10回全国高等学校選抜大会

4月1日(水)～7日(火) 熊谷ラグビー場

優勝:東福岡高校(初優勝)

3. ジャパンセブンス高校の部

4月11日(土) 葛飾区 葛飾陸上競技場

優勝・カップトーナメント 九州選抜
・プレートトーナメント 中国選抜
・ボウルトーナメント 北信越選抜

4. 第5回全国高等学校合同チーム大会

7月27日(月)～30日(木) 菅平高原サニアパーク

優勝(U17の部)

・カップトーナメント 九州ブロック
・プレートトーナメント 東北ブロック
・ボウルトーナメント 北信越ブロック

優勝(U18の部)

・カップトーナメント 近畿ブロック
・プレートトーナメント 中国ブロック
・ボウルトーナメント 東海ブロック

5. ジャパンラグビィ - トップリーグ 2009-2010

リ - グ戦 9月4日(金)～平成22年1月9日(土)

場所:北海道・岩手・山形・千葉・埼玉・山梨・茨城・群馬
栃木・東京・石川・静岡・京都・愛知・滋賀・三重
大阪・兵庫・岡山・広島・愛媛・香川・福岡・熊本
宮崎・長崎・佐賀・鹿児島(全国28会場91試合)

<リーグ戦>

・1位 三洋電機ワイルドナイツ	勝点 59
・2位 サントリーサンゴリアス	勝点 58
・3位 東芝ブレイブルーパス	勝点 52
・4位 トヨタ自動車ヴェルブリッツ	勝点 48
・5位 神戸製鋼コベルコスティーラーズ	勝点 38
・6位 クボタスピアーズ	勝点 31
・7位 福岡サンックスブルース	勝点 31
・8位 コカ・コラレットスパークス	勝点 31
・9位 ヤマハ発動機ジュビロ	勝点 30

・10位 NECグリロ-ケッツ	勝点 25
・11位 近鉄ライナーズ	勝点 23
・12位 リコーブラックラムズ	勝点 19
・13位 ホンダヒート	勝点 10
・14位 九州電力キューデンヴォルテクス	勝点 4

上位4チームがプレーオフトーナメントに出場

<セミアイナル>

平成22年1月24日(日)

・東芝 (35-24) サントリー 秩父宮ラグビー場
・三洋電機 (25-21) トヨタ 花園ラグビー場

<ファイナル>

平成22年1月31日(日) 秩父宮ラグビー場

・東芝 (6-0) 三洋電機 観衆 18004人
東芝2年連続5度目の優勝

6. トップリーグ入替戦および昇格

<入替戦 平成22年2月13日(土) 福岡>

・リコー(TL12位)(50-12)マツダ(チャレンジ3位)
・近鉄(TL11位)(28-8)横河電機(チャレンジ2位)
近鉄・リコーはトップリーグに残留

<自動昇格>

・NTTコミュニケーションズ(チャレンジリーグ1位)
・豊田自動織機(チャレンジリーグ2位)
トップリーグへの両チーム初昇格

7. トップリーグ FOR ALL チャリティーマッチ

平成22年3月7日(日) レベルファイブスタジアム(福岡)
FOR ALL ORANGE(45-40)FOR ALL GREEN

8. 第64回 国民体育大会<主催(財)日本体育協会>

10月2日(金)～6日(月) 新潟県 新発田市

優勝:成年男子 新潟県(27-18)広島県

・新潟県は初優勝

優勝:少年男子 福岡県(44-5)長崎県

・福岡県は2年連続3度目の優勝

9. 第22回女子ラグビー交流大会(合同)

11月23日(月・休日) 江戸川陸上競技場

・第1試合 世田谷レディース(7-12)日体大・PHOENIX

・第2試合

江戸川・レッド・兵庫・京都・YRA・個人
(12-24)名古屋・寝屋川

・第3試合 江戸川・レッド・兵庫・京都・YRA・個人
(0-51)日体大・PHOENIX

・第4試合 世田谷レディース(31-5)名古屋・寝屋川

・エンジョイメント

リパティーフィールズ・八戸レディース

(0-24)高崎・ワセダ・PHOENIX・小平・個人

<高校生7人制>

・世田谷・寝屋川・PHOENIX
(22-20) 八戸・福岡・YRA・阿倍野・市立船橋

10. 第7回東西学生クラブ対抗試合

12月26日 熊谷ラグビー場
・明治大学 HRC (55-5) 上の原ラグビークラブ

11. 第46回全国大学選手権大会

12月20日(日)~平成22年1月10日(日)
準決勝:平成22年1月2日(土) 国立競技場
東海大学 (19-14) 慶応義塾大学
帝京大学 (43-12) 明治大学
決勝:平成22年1月10日(日) 国立競技場
帝京大学 (14-13) 東海大学
帝京大学は初優勝

12. 第89回全国高等学校大会

12月27日(日)~平成22年1月7日(木)
花園ラグビー場
準決勝:平成22年1月5日(火)
東福岡高校 (67-12) 京都成章高校
桐蔭学園高校 (33-7) 大阪朝鮮高級高校
決勝:平成22年1月7日(木)
東福岡高校 (31-5) 桐蔭学園高校
東福岡高校は2年ぶり2回目の高校日本一

13. 第2回U18合同チーム東西対抗戦

・西軍 (38-7) 東軍

14. 第17回全国クラブ大会

12月27日(日)~平成22年1月24日(日)
準決勝:平成22年1月10日(月) 熊谷ラグビー場
駒場WMM (22-19) タマリバ
六甲ファイティングブル(32-10)北海道バーバリアンズ
決勝:平成22年1月24日(日) 秩父宮ラグビー場
六甲ファイティングブル (38-15) 駒場WMM
六甲ファイティングは10年ぶり4回目の優勝

15. 第60回全国地区対抗大学大会

平成22年1月2日(土)・4日(月)・6日(水)
名古屋市瑞穂公園ラグビー場
準決勝 平成22年1月4日(月)
新潟大学 (47-10) 北海道大学
愛知学院大学 (47-17) 東京都市大学
決勝 平成22年1月6日(水)
愛知学院大学 (28-19) 新潟大学
愛知学院大学は8年ぶり2回目の優勝

16. 第40回全国高等専門学校大会

平成22年1月4日(月)・5日(火)・7日(木)・9日(土)
準決勝 平成22年1月7日(水)
神戸総合ユニバー記念陸上競技場
奈良工業高専 (8-5) 仙台高専・名取
神戸市立工業高専(29-19)函館工業高専
決勝 平成22年1月9日(土)ホームズスタジアム神戸
奈良工業高専 (8-5) 神戸市立工業高専
奈良工業高専は初優勝

17. 第15回全国ジュニアラグビー大会

12月29日(火)・31日(日) 花園ラグビー場
優勝 第1ブロック
大阪府中学校選抜 (24-19) 大阪府スクール選抜
優勝 第2ブロック

長崎県選抜 (40-17) 愛知県中学校選抜

18. 第63回東西学生対抗試合(ATQ チャレンジシリーズ)

平成21年1月18日(日) 瑞穂公園ラグビー場
東軍 (102-14) 西軍

19. 第47回日本選手権大会

平成22年2月7日(日)~2月28日(日)
準決勝 平成22年2月20日(土)
三洋電機 (25-16) NEC 秩父宮ラグビー場
トヨタ自動車 (23-10) 東芝 花園ラグビー場
決勝 平成22年2月28日(土) 秩父宮ラグビー場
三洋電機 (22-17) トヨタ自動車
三洋電機は3連覇

20. 三地域対抗試合

平成22年3月14日(日) 花園ラグビー場
関東代表 (26-15) 関西代表
平成21年3月21日(日) 福岡パルファイブスタジアム
関西代表 (60-12) 九州代表
平成22年3月28日(日) 秩父宮ラグビー場
関東代表 (34-10) 九州代表

21. 第60日朝日招待ラグビー

平成22年3月14日(日) 福岡パルファイブスタジアム
九州代表 (36-8) 帝京大学
今回で朝日招待ラグビー終了

22. 第6回全国小学生タグラグビー選手権大会

平成22年2月27日(土)・28日(日)秩父宮ラグビー場
<優勝>
・カップトーナメント:横浜市汐入小学校・リトルベアーズ
・プレートトーナメント:磐田市立東部小学校
・ボウルトーナメント:白桦市立市浜小学校・
「市浜デンジャラス」
・シールドトーナメント:奈良県北大和小学校連合
「TRC 前栽レインボーズ」

国際大会・海外遠征関係

<高校>

1. サニックス ワールドラグビーユース交流大会

4月29日(水)~5月5日(火) 福岡 グローバル
・優勝 :ダックスランドハイスクール(フランス)
・準優勝:東福岡高校(日本)
・3位 :グレンウッドハイスクール(南アフリカ)
・4位 :デラセラカレッジ(NZ)
・5位 :ハミルトンボーイズハイスクール(NZ)
・6位 :アイヴィーブリッジコミュニティーカレッジ
(イングランド)
・7位 :常翔学園高校(日本)
・8位 :プレーリーウッドハイスクール(豪州)
・9位 :御所実業高校(日本)

- ・10位 : 國學院久我山高校(日本)
- ・11位 : 京都成章高校(日本)
- ・12位 : 大分舞鶴高校(日本)
- ・13位 : トンガハイスクール(トンガ)
- ・14位 : 常翔啓光学園高校(日本)
- ・15位 : 天理高校(日本)
- ・16位 : 佐賀工業高校(日本)
- ・17位 : 流通経済大学付属柏高校(日本)
- ・18位 : 伏見工業高校(日本)
- ・19位 : カーソングラムスクール(カナダ)
- ・20位 : ペクシンハイスクール(韓国)

2. 第17回 日・韓・中 ジュニア交流競技大会

<主催(財)日本体育協会>

8月23日~8月29日 韓国・木浦市

- ・日本代表(60-5)木浦市選抜
 - ・日本代表(78-5)韓国代表
 - ・日本代表(72-0)中国代表
- 日本代表は3戦3勝

3. 高校日本代表・フランス遠征

平成22年3月13日~29日

- ・第1戦 高校代表(23-34)フランス U17 代表
 - ・第2戦 高校代表(24-25)フランス U18 代表
 - ・第3戦 高校代表(24-27)エスポワール U18
 - ・第4戦 高校代表(32-7) パリ U19 選抜
- 高校日本代表は4戦1勝3敗

<日本女子代表>

4. 女子ワールドカップアジア地区予選(15人制)

11月4日 シンガポール

参加国: 日本・カザフスタン・香港・シンガポール
予選

- ・日本代表(35-11)シンガポール代表

決定戦

- ・日本代表(5-43)カザフスタン代表
- 女子ワールドカップ 2010 イングランド大会アジア地区
代表はカザフスタン代表に決定

5. 東アジア競技会 7人制(女子)

12月5日・6日 香港

第1日目

- 第1戦 女子日本代表(0-24)女子中国代表
- 第2戦 女子日本代表(50-0)女子グアム代表
- 第3戦 女子日本代表(7-5) 女子香港代表

第2日目

- 準決勝 女子日本代表(19-5)女子グアム代表
 - 1位・2位決定戦
 - 女子日本代表(12-34)女子中国代表
- 女子日本代表は準優勝

6. 女子7人制「香港ウィメンズセブンズ」

平成22年3月26日 香港フットボールクラブ

- ・第1戦 女子日本代表(5-12)女子香港代表
- ・第2戦 女子日本代表(7-24)女子タイ代表
- ・ポウルトーナメント 準決勝
- ・女子日本代表(14-0)女子ババアニューギニア代表

・ポウルトーナメント 決勝

- ・女子日本代表(35-7)女子シンガポール代表
- 女子日本代表が優勝

<セブンズ日本男子代表>

7. ケニア・サファリセブンズ

6月20日(土)・21日(日) ケニア・ナイロビ

<予選プール>

- ・第1戦 日本選抜(38-0)タンザニア代表
- ・第2戦 日本選抜(0-48)南ア・ケープタウン選抜
- ・第3戦 日本選抜(0-56)ケニア代表

<ポウルトーナメント準々決勝>

日本選抜(12-31)ウガンダ代表

<シールドトーナメント準決勝>

日本選抜(40-12)モロッコ代表

決勝

日本選抜(22-0)ザンビア代表

日本選抜はシールドトーナメントで優勝

8. ワールドゲームズ 高雄セブンズ

7月24日・25日 台湾 高雄

- ・第1戦 日本代表(5-15)アルゼンチン代表
- ・第2戦 日本代表(10-19)フィジー代表
- ・第3戦 日本代表(20-5)香港代表
- ・準々決勝 1戦目日本代表(0-17)ポルトガル代表
- 2戦目日本代表(24-29)アメリカ代表
- ・7位-8位決定戦
- 日本代表(19-5)香港代表

9. 上海セブンズ

9月12日・13日 上海

<ラウンド1>

- ・第1戦 日本選抜(36-0)スリランカ代表
- ・第2戦 日本代表(38-5)タイ代表

<ラウンド2>

- ・第1戦 日本選抜(17-28)韓国代表
 - ・第2戦 日本選抜(31-5)中国代表
- <カップトーナメントセミファイナル>

・日本代表(17-5)香港代表

<カップトーナメントファイナル>

・日本選抜(19-42)韓国代表

日本代表はカップトーナメント準優勝

10. IRB ボルネオセブンズ

10月31日・11月1日 マレーシア・コタキナバル

<第1日目・予選プール>

- 第1戦 日本代表(57-0)インドネシア代表
 - 第2戦 日本代表(26-0)タイ代表
 - 第3戦 日本代表(22-0)マレーシア代表
- <第2日目・カップトーナメント>

・準々決勝 日本代表(34-5)タイ代表

・準決勝 日本代表(10-7)韓国代表

日本代表はIRB アジアセブンズシリーズで

カップトーナメント初優勝

11. シンガポール クリケットセブンズ

11月7日・8日 シンガポール

<第1日目 予選プール>

第1戦 日本代表 (27-5)

NT Mosquitoes(オーストラリア)

第2戦 日本代表 (48-0)

Indonesian Harimau(インドネシア)

第3戦 日本代表(0-24) SA Vipers(南アフリカ)

<第2日目 カップトーナメント>

第1回戦日本代表 (29-0)

Cottesloe(オーストラリア)

準々決勝 日本代表 (7-5)

NSWanderers(マレーシア)

準決勝 日本代表 (12-31) Davetalevu(フィジー)

日本代表はカップトーナメント準決勝で敗退

12. スリランカセブンズ

11月28日・29日 スリランカ・コロombo

<第1日目 予選プール>

第1戦 日本代表 (33-0) イラン代表

第2戦 日本代表 (40-0) カザフスタン代表

<2日目 カップトーナメント>

準々決勝 日本代表 (35-7) 韓国代表

準決勝 日本代表 (40-5) 中華台北代表

決勝 日本代表 (26-7) マレーシア代表

日本代表はスリランカセブンズ初優勝

13. 東アジア競技大会(男子)

12月5日・6日 香港

第1日目 第1戦 日本代表 (19-5) 中華台北代表

第2戦 日本代表 (17-5) 香港代表

第3戦 日本代表 (19-12) 韓国代表

第2日目 第4戦 日本代表 (12-14) 中国代表

第5戦 日本代表 (41-7) グアム代表

1位・2位 決定戦

日本代表(26-24) 香港代表

男子 日本代表は金メダルを獲得

14. IRB USA セブンズ

平成22年2月13日・14日 アメリカ・ラスベガス

<予選プール>

第1日目第1戦 日本代表 (7 - 0) アルゼンチン代表

第2戦 日本代表 (5-24) イングランド代表

第3戦 日本代表 (5-22) ウェールズ代表

第2日目 ボールトーナメント

準々決勝 日本代表 (7-19) チリ代表

シールドトーナメント準決勝

日本代表 (17-5) カナダ代表

シールドトーナメント決勝

日本代表 (7-17) スコットランド代表

日本代表はシールドトーナメント準優勝

15. IRB オーストラリアセブンズ

平成22年3月19日・20日 アデレード

第1日目 第1戦 日本代表 (0-40) 南アフリカ代表

第2日目 第1戦 日本代表(5-54)サモア代表

第2戦 日本代表(21-15)フランス代表

第3日目 ボウルトーナメント

準々決勝 日本代表(15-21)スコットランド代表

シールドトーナメント準決勝

日本代表(22-5)ニウエ代表

シールドトーナメント決勝

日本代表(22-19)トンガ代表

日本代表はシールドトーナメント優勝

16. IRB 香港セブンズ

平成22年3月26日~28日 香港

<予選プール>

第1日目 第1戦 日本代表(10-12)ウェールズ代表

第2日目 第2戦 日本代表(0-45)イングランド代表

第3日目 ボウルトーナメント準々決勝

日本代表(10-12)

日本代表はボウルトーナメント準々決勝で敗退

<U20 日本代表関係>

17. 第2回ジュニアワールドチャンピオンシップ 2009

6月5日(金)・9日(火)・13日(土)・17日(水)・21日(日)

<出場 16 チーム>

日本・ニュージーランド・イングランド・南アフリカ

ウェールズ・オーストラリア・フランス・サモア

アルゼンチン・アイルランド・スコットランド・イタリア

カナダ・トンガ・フィジー・ウルグアイ

<予選プール >

第1戦 U20 日本代表 (0-43) U20 イングランド代表

第2戦 U20 日本代表 (20-29) U20 サモア代表

第3戦 U20 日本代表 (7-12) U20 スコットランド代表

<順位決定戦 13位~16位>

1回戦 U20 日本代表 (15-21) U20 イタリア代表

<15位決定戦>

U20 日本代表 (54-17) U20 ウルグアイ代表

U20 日本代表は15位

<15人制日本代表>

18. アジア5カ国対抗 2009

・4月25日 花園ラグビー場

日本代表 (87-10) カザフスタン代表

・5月2日 香港

日本代表 (59-6) 香港代表

・5月16日 花園ラグビー場

日本代表 (80-9) 韓国代表

・5月23日 シンガポール

日本代表 (45-15) シンガポール代表

日本代表はアジア5カ国対抗 2009 優勝

19. IRBパシフィック・ネーションズカップ(フィジー)

・6月18日 日本代表 (15-34) サモア代表

・6月23日 日本代表 (21-52) J・オールブラックス

・6月27日 日本代表 (21-17) トンガ代表

・7月3日 日本代表 (39-40) フィジー代表

日本代表は1勝3敗

20. リボタンDチャレンジマッチ

11月15日 宮城 ユアテックスタジアム仙台

日本代表 (46-8) カナダ代表

11月21日 東京 秩父宮ラグビー場

日本代表 (27-6) カナダ代表

21. NISS TOKYO 2009 プレディスローカップ

10月31日 東京 国立競技場

ニュージーランド オールブラックス(32-19)オーストラリア ワルビーズ

観衆:44,449人

各委員会関係

各委員会・各部門は次の事業を実施した。

1. 管理委員会

(1) 法務部門

- 個別契約および定型締結契約等の指導を行った。
- プレディスローカップ等イベントに関する諸契約の指導を行った。
- その他日常業務に関する相談を行った。
- 選手登録に仲裁条項挿入した。

(2) 財務部門

- 1・RWC2019 戦略室の戦略検討に参画し、「財務分科会」に置いて協会財務面の分析、収入増加策の検討、管理・運営面の課題整理等に貢献した。
- 2・平成 22 年度予算作成に当たって、主要事業についてのヒヤリングを行い、予算方針の策定と予算総額の調整に関する助言を行った。

(3) 環境部門

「社会貢献活動の 1 つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る」ことのテーマとして取り組んだ。

< 事業活動 >

- ・日本協会として「環境保全活動推進宣言」のもと環境啓発活動推進役を担う。
- ・「チームマイナス6%」(環境省主管)加盟メンバーとして環境保全活動への推進協力継続する。
- ・広報委員会との連携・協力体制を強化し環境啓発活動を推進を図った。
- ・トップリーグ事業委員会とのコラボレーションによる相乗効果に努めた。
- ・11月20日開催のJOCスポーツと環境担当者会議に参加し他の団体の取り組み事例を研究した。
- ・すべての実践活動を広報 PR に連動させ、更なる環境啓発に向けた相乗効果を図った。

< 具体的実施計画 >

- ・広報活動(環境啓発PR)
広報委員会との連携によりHP、機関紙、プログラム、メンバー表等への環境保全活動推進掲載した。
- ・「One For Green All For Earth」のタイライン活用
- ・「チームマイナス6%」の露出
- ・7月7日「クールアースデー」のHPにてPRは配信(セタライトダウン・ノーカーデー
・1人1日1kgのCO2削減運動)

- ・試合(競技場)を観客・ファンへの環境啓発活動のチャン

スと捉えてのPR推進 環境協力バナー(横断幕)を秩父宮ラグビー場に掲出した。

- ・試合開催時の場内アナウンスにより、ごみ分別回収協力による資源再活用をお願いした。
- ・環境省の協力によるトップリーグ全チームキャプテンによる環境メッセージ入りのPRプログラム配布した。

2. マーケティング委員会

1. ラグビー協賛の価値向上

- ・RWC 招致を控え、国際ラグビーの強力コンテンツとしてプレディスローカップを招致した。スポンサーセールスでは、協賛企業に商品プロモーションや取引先ホスピタリティの機会としての活用をメリットとしてアピールし、通常取引の無かった新規スポンサーを獲得することができた。各社ともスポンサー企業にとって有効なビジネスソリューションとなった点でJRFU にとってラグビー協賛の価値向上として成功モデルとなった。
- ・広告価値向上に向けた安定したテレビ露出増加を図るため、テレビ番組企画を電通と協同し実施を検討したが、次年度以降に再度企画を検討する。

2. マーケティング収入増加に向けた施策実施

- ・未開拓の 카테고리 企業を含め協賛プロモートを行ったが、国内大会においては新たな大型スポンサー企業の獲得が出来なかった。
- ・国際大会においては、JWC やプレディスローカップといった新たな大会により新規スポンサー企業獲得に成功した。
- ・新規スポンサー開拓には色々な手段を講じて観客を増やし、メディアの関心を増やし、その結果TV放映等の機会を増やす好循環を作る事が求められ、一部具体的な話し合いに入った。
- ・現行スポンサー制度下での新規スポンサー獲得が困難になった現状を認識し、制度自体の根本的な見直しと、スポンサー未使用なコンテンツの商品化の検討を開始した。

3. IRB 及び ARFU 他海外団体等との連携

- ・国際委員会と連携し、IRB や ARFU と情報交換を行い、JWC 及びアジア 5 カ国対抗でのマーケティング活動を円滑に行う等、国際大会におけるマーケティングプロパティ及びスポンサー権利の保護と最大化に努める。

4. 電通をはじめとする各広告代理店との連携

- ・独占契約代理店である電通との連携
年間目標額の達成に向け相互に協力し、次年度以降の電通との契約更新を目指す。
電通の営業力の更なる発揮を促すと共に、協会が持つラグビー関係者ルートを最大限に生かしたセールスを推進。引き続き、2010 年度以降の電通とのマーケティング契約更新を目指し交渉を継続する。
- ・前述の通り、ラグビーコンテンツ価値向上のため、電

通と協力しブレディスローカップの招致を行った。

5. その他

<2009 年度大会実績>

<HSBC 5 カ国対抗 2009 >

4 月 25 日 大阪 花園ラグビー場(観客 1575 人)

<IRB TOSHIBA ジュニアワールドチャンピオンシップ 2009 >

東芝を大会タイトルスポンサーとして協賛を獲得する。

<ニッスイ東京 2009 ブレディスローカップ >

日本水産を大会タイトルスポンサーとして協賛を獲得する。

電通との協働により、日本水産以外にも新規スポンサー開拓に成功する。

<リボピタン D チャレンジ 2009 >

・日本代表オフィシャルスポンサー大正製薬の権利として、2 試合冠試合を実施した。

・大正製薬の CSR 活動の一環として試合前に小学生を対象に、タグ・ラグビー教室を開催した。

大正製薬からは継続要請があった。

・カナダ大使館商務部へ働き、大使館との関係企業を紹介してもらい、1 社協賛を獲得した。

・カナダ大使館の協力でポストマッチファンクション開催し、メンバーズ会員も参加し、高い費用効率とクオリティが実現出来た。

<サントリー全国小学生タグ・ラグビー選手権大会 >

小学生に夢を与える、貴重な大会として定着してきた。今後も継続して協賛をお願いして行く。

<国内大会スポンサー >

年間広告協賛社数が減少し、協賛金収入が前年を下回った。

<トップリーグプレーオフ >

新規スポンサー獲得活動を行ったが、獲得できず継続して獲得活動を行う。

・その他の各代理店との連携

電通独占ながらも他代理店との契約が存在する現状から、各社の営業努力を促す。

5. その他

販売後のスポンサーフォロー、特に権利行使、保護やホスピタリティを代理店の協力の元に確実にし、スポンサーからの信頼獲得に努める。

3. 広報委員会

広報・事業部門

1. 協会運営・事業広報

マスコミとのリレーション

・マスコミ懇談会の開催

報道支援を主目的として、日本選手権開催日にあわせ新聞・テレビ各社の運動部長を中心に協会幹部との懇親会を開催した。

・報道機関への訪問

ラグビーへの更なる理解促進を目的として、協会幹部による新聞・テレビ各社を訪問した。<8 月末~9

月初旬)

・報道記者との意見交換

定期的にラグビー担当記者との意見交換を開催し、双方の報道環境改善に努めた。

広報戦略の企画・立案

・中・長期的なメディアプランの企画・立案

継続したステークホルダーとのコミュニケーションが求められる広報業務の円滑な活動のため、委員会リーダーと職員広報担当者とのミーティングを定期的を実施、課題の抽出とアクションプランの策定を行った。

各部門への広報支援・連携

・各部門との連携に心がけ、デイリーなニュース発信話題の発掘を行い、タイムリーで効果的な手法<会見・資料配信など>による情報提供を行った。

・ワールドカップ招致との連携

招致実行委員会へ広報委員会として出席、常時、報道プラン策定に参画、7 月 28 日の招致決定日の報道に結びつけた。

・JWC 広報

JWC に関する報道、告知活動の全てに関連し PR に寄与、成果を挙げた。

・ブレディスローカップ広報

ブレディスローカップに関する報道、告知活動の全てに関連し PR に寄与、成果を挙げた。

・マーケット、事業、普及育成委員会との連携

きめ細かい広報対応のため、幅広く委員会との交流を行い、今後も継続して行く。

・RWC2019 戦略室との連携

ビジョン委員会へメンバーを参画させ、新理念等の策定に寄与、成果を挙げた。

危機管理広報

・危機管理広報対応

不祥事案への迅速・的確な対応を行った。

・各層代表へのリスクマネジメント広報講習会

U20・高校日本代表への実施だけであったが、新行動規範等をベースに現マニュアルを見直しを行い、協会全体へのリスクマネジメント広報ガイドラインを検討・作成し、研修等に使用していきたい。

日常広報業務

協会・広報部門を主とする日常業務に対し、助言・判断を行った。

・取材・会見等の対応

・ニュース・ソースの発掘

・ニュース・リリースの作成・配信

・関係先との調整

・ホームページによる情報発信

・機関誌編集

・競技時広報の運営

・競技時広報の運営・支援・指導(地方)

情報管理部門

ホームページの管理・運営及び情報基盤の整備

・JWC での国際基準での試合記録を対応した。

魅力あるホームページの作成

- ・ホームページの部分的なリニューアルについて、タイムリーな対応を行っている。(見やすさを重視)

読まれる機関誌の発行

- ・年間5回の発行となった。
- ・担当者による編集会議を新設した。
- ・協会機関誌としての位置づけを明確にした。

協会運営部門

- ・試合現場対応・支援・試合後会見運営・支援、試合記録に適宜対応した。
- ・三地域協会と競技運営、広報関連面での連携を図った。
- ・4月にはJWC競技運営支援プロジェクトを設置、開催地の地域協会との連携を行った。

4. 事業委員会

1. 主催試合及び大会の事業・企画・運営に関する事項

- ラグビーの価値向上を関係機関と構築に努めた。
- 主催大会の事業企画の立案を実施した。
- 主催大会の日程表の作成し配布した。
- 主催大会の試合運営を三地域・県協会の協力により円滑運営が出来た。
- 行政・関係機関等の連携による告知・啓発活動の強化を図った。
- 各メディアとの連携による集客拡大を実施した。
- 集客拡大の諸施策立案し実施した。
- 普及委員会と連携し、若年層への普及促進とラグビー観戦への告知活動を行った。
- メンバーズ会員の増大促進活動の展開し、会費無料会員制度を新設した。
- その他、必要業務を実施する。

2. 国際大会

- 中長期国際試合の計画案を作成する。
- IRB、ARFU主催試合運営を行い、特にJWC大会運営は三地域協会の協力により、大成功におわり、高い評価を受けた。
- 集客拡大のための諸施策を立案・実施し、特にプレデイスローカップは電通と連携し、国立競技場を満員の観衆を集めた。
- 試合運営を広報・マーケティング等委員会とのタイアップによる一体活動を展開した。

3. 国内大会

- 日本選手権大会の集客・収益向上のための諸政策を実施したが、集客・収支とも前年を下回った
- 全国大学選手権大会の集客・収益向上のための諸政策を実施したが、集客・収支とも前年を下回った。
- トップリーグ事業は観客動員目標50万 実績35万人で終わった。(<前年比90%)

4. 事業企画プロジェクト

- 国際水準の試合運営を実施した。(JWC運営)

1. 国体部門

- 第64回国体開催に関する打合せを実施した。
新潟県実行委員会 新発田市実行委員会
関東ラグビーフットボール協会
新潟県ラグビーフットボール協会
- 平成22年以降の国体開催県との打合せを実施した。
・千葉県(22年)・山口県(23年)・岐阜県(24年)
- 平成27年第70回国体開催予定地(和歌山県)の競技会場視察を実施した。
- 国体部門会開催
・成年・少年・部門の7人制大会を検討した。
成年の部を7人制大会に変更する。
体協に変更申請を行った。(2013東京国体)
- 第64回国民体育大会について
大会期間：10月2日(金)～10月6日(火)
新潟県 新発田市で開催した。
組み合わせ抽選会の実施した。
9月6日(日) 午後1時～2時
財)日本ラグビー協会 会議室
代表者会議 10月1日(木) 新発田市で実施した。
・少年男子 15:00～ ホテル・清風苑
・成年男子 16:30～ ホテル・清風苑
表彰式 10月6日(火) 13:00～
・成年男子・少年男子・総合(五十野陸上競技場)
優勝
成年男子 新潟県 <初優勝>
少年男子 福岡県 (2年連続3度目)
- 開催地との意見交換会
・10月5日(月) 18:00<新発田市>
行政・県協会・市協会・三地域協会・国体委員・日本協会役員等が参加し実施した。

2. 社会人部門

- トップリーグを除く社会人ラグビーを発展させるための諸施策を検討した。
- YCAC7人制大会への協力した。
(4月5日・横浜 YCAC)
大学8・社会人6・クラブ2 計16チーム
優勝:YC&AC (2連連続)
- 主要試合等に社会人チーム(社連加盟チーム)へ観客動員の協力依頼した。
- 第64回国民体育大会(新潟県)へ協力・参加した。

3. 大学部門

- 大学ラグビーを発展させるための諸施策を実施する。
- 三地域協会と協力して大学選手権の運営を円滑に行った。
- 魅力ある大学選手権を目指し、組合せ方式を変更し実施した。
- U20強化のため各大学へ協力依頼を行った。
- 大学チームへ観客動員策を検討した。

4. クラブ部門

クラブラグビーの社会的意義の促進

1. 「クラブラグビー10年構想」の更なる推進をした。
(6年目の折り返し年で再構築)
地域の人達・行政と協力し地域に根ざしたクラブづくりを目指し、地域住民、とりわけ青少年の社会教育・社会体育の向上に寄与する活動方向を検討した。
安全で楽しいラグビーの実現のために多くの芝生のグラウンドの確保に努めた。
クラブ大会は、選手、レフリー、役員、家族、友人などの関係者すべてが楽しめるものとしその実現に努力した。
ラグビーの普及・強化・安全な図るため、各クラブチームは、自チームで公認レフリーの養成を依頼した。
関係者はラグビーを楽しめる環境作りを推進した。
障害者ラグビーを積極的に何がサポートできるか検討を行った。
ろう学校支援スクラム活動(募金)の実施
(明晴学園中学部設立支援活動)
 - ・東日本トップクラブ表彰式
 - ・東日本マスターズ大会
 - ・日本選手権 決勝 秩父宮ラグビー場
2. ラグビー文化の涵養を通しての、「ワールドカップ日本招致」に協力した。
クラブ部門では、「フェアプレー」「ローサイドの精神」「One For All, ALL For One」「アフター ファンクション」など、ラグビーの持つ素晴らしい文化を、様々な機会を捉えクラブ関係者に伝え、この運動をさらに拡大しラグビーの普及に寄与するとともに、「ワールドカップ日本招致」の実現こそ、ラグビー文化の理解を進める上にも重要な事業と認識し招致活動の支援を推進した。
3. クラブ大会の開催
 - 第17回全国クラブ大会 会場:熊谷、秩父宮
参加数:6チームによるトーナメント戦
 - ・1回戦:平成21年12月27日 熊谷ラグビー場
 - ・準決勝:平成22年1月10日 熊谷ラグビー場
 - ・決勝:平成22年1月24日 秩父宮ラグビー場
六甲ファイティングブル (38-15) 駒場WMM
 - ・六甲ファイティングブルは10年ぶり4回目の優勝し日本選手権への出場権を獲得した。
学生クラブ東西交流フェスティバルIN菅平2009
 - ・9月4日(金)~8日(日) 場所:菅平サニアパーク
 - ・参加数:31チーム
 - ・菅平合宿の時期をとらえ、学生ラグビーの振興と普及を目的とした大会とした。
 - ・学生実行委員会を組織し、学生自身が主体的に関わり大会運営を行った。
 - ・単なる競技会ではなく、学生向けのレフリー講習会、安全対策講習会、スキルアップ研修会などを組み込んで学生クラブの資質の向上を図った。
 - 第8回東西学生クラブ対抗試合
12月26日(土) 熊谷ラグビー場

・明治大学 MRC(55-5)関西学院大上ヶ原クラブの学生
関東勢6連覇通 算成績 東の6勝2敗

4. 女子ラグビー

- 総会 6月21日 ウイメンズプラザ
女子15人制 強化合宿
- 6月13日(土)・14日(日) NTTドコモランド
選手30名・コーチ3名・メディカル1名・総務1名
- 7月18日(土)~20日(月) ユース、コルツ、一般
選手、強化選手合宿(数河高原 修徒館)
計68名(選手55名・コーチ5名・スタッフ8名)
- 女子日本代表強化遠征
- 9月20日~28日 カナダ バンクーバ
選手26名・コーチ2名・メディカル1名・総務1名
- 第22回女子交流ラグビー大会
- 11月23日(月・休日) 江戸川陸上競技場
- ・第1試合 世田谷レディース(7-12)日体大・PHOENIX
- ・第2試合
江戸川・レット・兵庫・京都・YRA・個人
(12-24)名古屋・寝屋川
- ・第3試合 江戸川・レット・兵庫・京都・YRA・個人
(0-51)日体大・PHOENIX
- ・第4試合 世田谷レディース(31-5)名古屋・寝屋川
- ・エンジョイメント
リバティーフィールズ・八戸レディース
(0-24)高崎・ワセダ・PHOENIX・小平・個
- 平成22年3月 ジャパンセブンス大会
場所:瑞穂ラグビー場
ユース(小学5年生~高校1年生まで)は関東、関西、九州でそれぞれ毎月1回練習を行った。
スクール小学生大会を春・秋 関東地区で開催した。
- <日本女子代表>
- 女子ワールドカップアジア地区予選(15人制)
11月4日 シンガポール
参加国:日本・カザフスタン・香港・シンガポール
予選
- ・日本代表(35-11)シンガポール代表
決定戦
- ・日本代表(5-43)カザフスタン代表
女子ワールドカップ2010イングランド大会アジア地区代表はカザフスタン代表に決定
- 東アジア競技会 7人制(女子)
12月5日・6日 香港
- 第1日目
- 第1戦 女子日本代表(0-24)女子中国代表
第2戦 女子日本代表(50-0)女子グアム代表
第3戦 女子日本代表(7-5)女子香港代表
- 第2日目
- 準決勝 女子日本代表(19-5)女子グアム代表
1位・2位決定戦
- 女子日本代表(12-34)女子中国代表
女子日本代表は準優勝

- 女子7人制「香港ウィメンズセブンズ」
平成22年3月26日 香港フットボールクラブ
・第1戦 女子日本代表(5-12)女子香港代表
・第2戦 女子日本代表(7-24)女子タイ代表
・ポウルトーナメント 準決勝
女子日本代表(14-0)女子パプアニューギニア代表
・ポウルトーナメント 決勝
女子日本代表(35-7)女子シンガポール代表
女子日本代表が優勝

5. トップリーグ事業委員会

トップリーグ事業計画に基づいた諸活動を展開した。

- 2009年度集客目標 50万人 35万人
(目標比70%) 前年比90%
- FOR ALL 活動
コミュニケーションイベント開催
来場者イベントの実施(地域特色を生かした)
観戦エンジョイチケットの発売
(ファミリーチケット・コタツチケット・ラウンジチケット等)
ラグビー観戦招待キャンペーン(秩父宮に行こう・花園体感・ラグビー観戦に行けばいい等)
- 環境保全活動を実施した。
For ALL TRY for GREEN プロジェクト
For ALL チームマイナス6%「For All for earth」
- 企業スポーツのロールモデルを実施した。
JAPAN RUGBY TOP LEAGUERS GUIDE
の発行
新入部員の研修会
- 募金活動を行った。
サモア諸島沖地震被災地支援義捐活動
- 未来ラグーマン活動を行った。
試合会場でのタグラグビー教室の開催
高校生以下のチームヘラグビーボールの配給
ラグビーマガジンカップ・ミニラグビー大会の支援
- 地域社会活動を行った。
東京都港区・区民へのスポーツ活動推進協力
スポーツフォトグラファー体験プログラムの開催
大阪府「みどりの募金」活動協力
- 第2回チャリティーマッチの開催
平成22年3月7日 福岡 レベルファイブ
- トップリーグ露出活動
・国内テレビ放送(中継・放送実績)
リーグ戦 生中継 43 : 録画 34
プレーオフ 生中継 4 : 録画 3
チャリティーマッチ 生中継 1
・海外テレビ放送
リーグ戦 13(SKY NZ:世帯普及率45%)
プレーオフ 3(同上)
- MEDIA ACTIVITIE 実績
・記者会見2回 取材実績 累計 53社 76名
・表彰式・プレ 取材実績 累計 70社 205名

・メディア懇親会 取材実績 累計 32社 48名
計 155社 329名

- OFFICIAL WEBSITE ACCESS
公式ホームページのリニューアル実施
試合動画の配信・チーム記録・個人記録等各种データが閲覧できる。
総アクセス数 2,513,301件
- 普及分野の強化
・各試合会場でのタグ・ラグビーイベントの開催
・加盟チームの普及活動テーマ数 131 テーマ
- 日本代表活動への協力
・代表活動へのスタッフ・選手の派遣
・JWC への観客動員協力
・プレディスローカップへの観客動員協力

6. 普及育成委員会

- ラグビー競技の精神面を全面的に押し進め、勝利至上主義を払拭する事業を展開した。
- 古来よりの「紳士のスポーツ」を推進した。
「普及宣言」
若年層プレーヤーへの伝達
3Side の精神の厳守
On Side の精神 = 反則をしない
No Side の精神 = 戦い終わったら 敵味方無し
For The Side の精神 = チームのために
指導者への伝達
3F のコンセプト
Fight = 闘志 Friend Ship = 友情
Fair Play = 正しく、正々堂々とプレー

【活動方針】

- 競技人口(小学生・中学生)の5%増の継続および各カテゴリーで競技継続に重点を置いた普及活動の展開を図る。特に中学生においては、進学先中学校にラグビー部がない等により他競技へ移行してしまうケースが散見されており、ラグビーをやりたくてもできない子供達の受け皿として各都道府県に「拠点校」を指定し競技継続を目指す事業を検討した。
 - タグラグビーが小学校の学習指導要の解説書に取り入れられた機会に地方自治体・小学校・教員に対する普及活動に努めた。
教育現場に対する普及手法としては、ラグビー精神および社会的貢献に重点を置き、競技の普及を推進した。
 - タグラグビーの普及について、トップリーグ各チームと連携し各地域に密着して展開した。
 - 競技力向上と連携し、インストラクター制度の再構築およびインストラクターの増大を行った。
- < 総務関連事業 >
各地方自治体、教育団体等での研究活動へ講師派遣を行った。
- < 学校体育事業 >
タグラグビー普及のため三地域協会に貸出用としてダ

グセットを整備した。

各種学校授業・講習会等への講師派遣をした。

DVD版「指導者のガイド・ブック」を配布した。

< U 15 事業 >

「中学校」「ラグビースクール ジュニア」の垣根を外し、世界レベルに順じ「U 15」「U 14」「U 13」の各カテゴリーによる指導方針を検討した。

第 15 回全国ジュニアラグビー大会の開催、同大会をエイジ世代の最高峰と位置付け更なる発展を考え開催した。

本年は記念大会と位置づけ、各種イベントを企画し「ジュニアラグビー」の重要性を訴えた。

三地域協会主催の「ジャンボリー大会」および「各地協会ブロック大会」へ助成を行った。

中学生の競技継続を図るための「拠点校」活動への助成金を検討した。平行し、各ラグビー用品メーカーとの協賛を図り、ボール及び用具の供給を検討した。

指導者用「ジュニア ラグビー指導者用ガイド・ブック」を発刊した。

< U 12 事業 >

世界的レベルに順じて、「U-12」「U-10」「U-8」の各カテゴリーによる指導方針を審議した。

普及活動の手法・質の均一化、情報の共有を図るための「研修会」を開催した。「普及宣言」の周知徹底

三地域協会主催の「指導者講習会」へ助成を行った。

指導者用書籍「ミニラグビー指導者用ガイド・ブック」を発刊する。

冠大会「マイクロソフトカップ ミニラグビー - 交流大会」は中止になった。(マイクロ社協賛取りやめ)

< タグラグビー事業 >

サントリ - カップ全国タグラグビー選手権大会は、タグラグビーの普及からも憧れの大会を目指して運営を実施を行った。

三地域協会主催の「各地域協会ブロック大会」へ助成を行った。

三地域協会主催の「タグインストラクター研修会」への助成を行った。

タグラグビーマニュアル「指導のためのガイドブック」の改定・増刷した。

< その他事業関係 >

ミニラグビーインストラクター、ジュニアラグビーインストラクターの両制度のネット化を検討した。

スクール生徒募集用のA3版「ラグビーしようよ！」のポスター作成し各地に配布した。

各カテゴリー - で情報交換可能な「掲示板」的サイトの検討した。

日本協会ホームページの活用によりタグセット貸出等各種サービスを提供を行った。

7. 国際委員会

< ワールドカップ日本招致活動を視野に入れた海外とのネットワークづくり >

1. 海外への情報発信の強化

IRB 理事国、アジア協会理事国に対し、定期的 ニュースリリースを送付した。

WC 招致用 2 本・欧州訪問時・アジア協会用英文の JRFU ハンドブックの制作し配布した。

国内メディア 各国協会へ総計 4000 冊を配布英文ホームページの充実および海外メディアの活用を展開した。 1日平均8,000アクセス

2. 海外との窓口(コンタクトパーソン)拡大

より多くの日本協会関係者が海外と交流できるための機会作りを行った。

3. 事務局スタッフのバイリンガル化を促進した。

職員 14 名 週 1 回 英会話教室に参加

4. ワールドカップ日本招致活動をさらに推進する。

・トプリン・ロイターを活用して「日本招致」関連ニュースを世界に発信した。

・JWC や国際試合について、国内での告知活動を展開した。

・FCCJを活用して、告知活動を行った。

5. アジアでのリーダーシップを取るための各種活動を展開した。

・アジア協会理事会でトーナメント委員会とジュディシヤル委員会の設置を提案し実現した。

・トーナメント委員長 徳増氏

・ジュディシヤル副委員長 光明氏

< 一般項目 >

1. IRB 関連

IRB 議事録の管理・活用を行った。

IRB 通達およびリリース翻訳の各部署へ提供した。

IRB の各種規定の管理体制を行った。

IRB および IRB 理事国との諸連絡の強化を図った。

2. アジア理事会関連

アジア協会の議事録の管理・活用を図った。

アジア協会および理事国との諸連絡の密にした。

アジア協会諸事業に協力した。

3. 国際試合関連業務の強化

国際試合を計画し実施した。

海外チーム受け入れ計画に作成し実施した。

リエゾン育成および各種運営に参加した。

アジア 5 カ国対抗戦・JWC・カナダ戦・ブレディスロ

4. 国際関連一般

海外 VIP 来日時の実確な対応を行った。

英文ホームページ、英文プレスリリース関連を定期的に発信した。

クリアランスおよび海外遠征許可関連業務を行った。

8. 競技力向上委員会

1. 技術部門(ATQ プロジェクト)

<活動方針と目的>

2011年W杯において日本代表チームのベスト8進出、JWCにおいてU20日本代表がベスト8進出するために以下の事業を展開した。(U20は15位)

目標達成に必要な人材の発掘と育成を行った。(発掘・育成・輩出)

目標達成のために必要な実効性のある計画の策定とシステム構築・実施(計画・実行)を進めた。

目標達成に必要なゲームプランと戦術開発(戦術・技術開発)と活用を図った。

各部門との有機的な連携を図った。

<主な事業内容>

ATQ プロジェクト

- ・U20を基軸としたユース層の強化を行った。
- ・ハイパフォーマンス・ユニット選出選手の海外派遣を継続する。
- ・JAPAN A編成への支援と協力をした。
- ・ATQアカデミーの継続に実施する。(HS、U-17プロダクトレセンと連携)

育成チーム・選手強化(選考・合宿・遠征)

- ・U20世界大会へ支援・協力した。
- ・高校代表チーム:フランス遠征へ支援・協力した。

スタッフ派遣

- ・メディカルスタッフ(ドクター・AT)派遣事業を継続した。
- ・フィットネス&コンディショニング派遣事業(医科学委員会連携を)を継続した。
- ・テクニカルスタッフ派遣事業を支援した。
- ・アンチドーピング事業を支援した。

<スケジュール>

U20に本代表の日程

<海外強化遠征>

3月19日~4月5日:遠征(ウェールズ)

4試合 1勝3敗

<強化合宿・国内>

・4月25日~30日:(都内・辰巳の森グラウンド)

・5月9日~17日:(都内・辰巳の森グラウンド)

・6月5日~6月21日:JWC(国内)

開催地・東京・愛知・大阪・佐賀

高校日本代表の日程

・高校日本代表セレクション合宿

H22・2・5~8日 天理大学白川グラウンド

選手 69名・スタッフ 9名

・直前合宿

H22・3・10~12日

・フランス遠征

H22・3・13~29 4戦 1勝3敗

セブンズアカデミー」開催(新設)

<目的>

・有望な選手(タレント)を発掘する。

・有望選手を高度な育成・強化プログラムを提供し競技力を向上させ、世界のトップと戦える選手を継続的に育成する。

・第1回・11月22日 国立科学スポーツセンター

参加者 57名(男11名・女46名)

・第2回・22年3月6日 味の素ナショナルセンター

参加者 41名(男女)・スタッフ 21名

・U17プロダクトレセンの開催及び全国大会の開催

・北海道地区(5月2日~4日)

・近畿地区(6月5日~7日)

・関東地区(6月19日~21日)

・中国地区(6月20日・21日)

・東海地区(6月26日~28日)

・北信越地区(6月26日~28日)

・東北地区(7月3日~5日)

・四国地区(H22・3月13日・14日)

・九州地区(H22・3月20日~22日)

・7月22日~25日 U-17全国交流大会

高校スキルアップキャンプ・7月28日~30日(菅平)

第35期高校代表セレクション合宿

平成22年2月5日~8日 天理大学 白川グラウンド

選手 56名・スタッフ 9名

2. コーチ部門

1. 指導者育成

強化コーチ養成講習会の開催

・TLチーム 4月13日 日本協会

強化コーチ専門科目講習会

・7月25日~30日

・受講生 36名・講師 19名

・国立オリンピックセンター

トップコーチ講習会(TL 監督・コーチ 9名)

・10月31日 日本青年館

・PNC2009を振り返って

・世界で戦うオーチング

(講師 日本水泳連盟 平井氏)

育成資格講習会(九州地区)

・H22・2月20日・21日・27日

・受講生 13名・講師 8名

・コカコーラウエスト・さわやかセンター

育成資格講習会(関東地区)

・H22・1月~9日・11日・16日

・受講生 19名・講師 7名

・埼玉県立スポーツ研修センター

新スタートコーチトレーナー養成講習会

・H22・3月6日・7日

・受講生 10名・講師 5名

・日本協会 2F ジャパンクラブ

2. コーチング研究

IRB コーチ養成に関する会議への参加

指導教材の開発

3. コーチング出版関連

講習会用マニュアルの作成
・新スタートコーチ用 1000 部作成
講習会・研修会用ポスターの作成

4. 会議開催

部門全体会議
部門内小会議

5. コーチ資格義務化に伴う事業

・有資格者登録管理システムの確立

3. 医・科学部門・AIR 部門

ラグビーにおける競技力の向上と選手の健康管理を含む安全対策について医科学的側面および科学的側面からの支援を目的に、医事部門、科学・情報部門およびトレーナー部門それぞれのアプローチと部門間の連携をより密にして以下の事業を行った。

< 医・事部門 >

三地域協会および都道府県医務委員会間の整合性をとりながら広範な医学的支援を行った。

三地域連絡協議会の開催

日本協会主催試合医務担当

日本代表チームメディカル部門担当(含む海外遠征帯同ドクター派遣)

トップリーグメディカルコントロール部会担当

マッチドクター(チームドクター含む)の養成

AIR への協力

JOC、体協、JISS との連携強化および他必要な事業

< トレーナー部門 >

日本ラグビー界におけるトレーナーの位置付けを明確にするとともに人材の育成を行った。

人材育成事業(ラグビートレーナー育成)

競技力向上委員会トレーナー部門担当

トップリーグメディカルコントロール部会との連携強化およびその他の必要な事業を行った。

< 科学・情報部門 >

さまざまな視点から科学的なアプローチによるラグビーの分析および調査研究を行った。

ラグビーの普及・育成に関する技術情報を研究する。

ラグビー科学研究 18 巻の発刊する。

JOC、体協、JISS との連携強化および他必要な事業を行った。

【具体的な取り組みについて】

< 医事部門 >

委員会・医事担当部門会議・三地域連絡協議会

医務担当・日本協会主催試合(主管協会と連携)

日本代表チームメディカル部門担当(含む海外遠征)

< トレーナー部門 >

トレーナーセミナーの開催

ホームページおよび関連機関誌を通じて医・科学情報を発信した。

日本代表チームのトレーナー環境の整備・支援する。

教育・啓発関連資料の作成した。

< 科学・情報部門 >

委員会・担当部門会議・小委員会の開催

人的支援: 国際競技会コンサルタント

物的支援: KIT&KIDS 支援

プログラム支援: AIR カンファレンス

情報支援: 科学情報・組織経営情報ニュース

【研究テーマ】

ラグビーのゲーム様相に関する研究を行った。

15 人制・7 人制の特性研究

レフリー・ルールに関する研究

グランドコンディションに関する研究

体力・形態学基礎研究

情報科学部門研修会

「NZ ラグビーにおける中長期キャリア戦略」

H22・3 月 16 日 名古屋大学セミナー室

講師 オタゴ大学 ケンホッジ氏

< AIR 部門 >

AIR: アジア地区における強化・普及・レフリー向上等について連携・協力した。

・アジア 5 カ国大会へレフリー派遣

4 月 25 日 ~ 5 月 16 日 韓国・香港・シンガポール派遣レフリー

平林・戸田・麻生・大槻(パネルレフリー)

久保・河野・下村・鈴木(アシスタントレフリーパネル)

9. 審判委員会

1. レフリー部門

1. 各種研修会の実施

全国高校選抜大会研修会

4 月 1 日 ~ 7 日 埼玉 熊谷ラグビー場

参加者 : 部門委員 9 名 レフリー 20 名

内容 : 実技レビュー・レフリング統一・安全対策等
サニックス・ワールド・ユース大会研修会

4 月 29 日 ~ 5 月 6 日 福岡 宗像市

参加者 ; 部門委員 9 名 レフリー 23 名

内容 : 実技レビュー・レフリング統一・安全対策
夏季トップ研修会 & 三地域レフリー研修会

8 月 6 日 ~ 9 日 北海道 網走

参加者 : 部門委員 11 名 レフリー 19 名

内容 : ・フィッネストレーニング及びテスト
・競技規則の確認(スクラム・ラインアウト・ブレイクダウン・ファウルプレー等)・TL 取り組み説明等

夏季三地域レフリー研修会

8 月 21 日 ~ 23 日 長野 菅平

参加者 : 部門委員 30 名 レフリー 37 名
女子レフリー 4 名

内容 : ・IRB レフリーレベル 1 コース 研修
・2009 度レフリングの指針
・メンタルトレーニング(外部講師)
・実技・フィッネステスト等々

全国高校大会研修会

12 月 29 日 ~ 1 月 3 日 大阪 花園

参加者：部門委員 36名 レフリー 19名

女子レフリー 7名

内容：・香港協会・バーナード氏講義
・大会レフリング統一・DVD 使用研修
・メンタルフィットネス(外部講師)
・レフリーとしての心構え
・安全対策・グループ討議等々

春季研修会(2回)

5月24日 東京 東大駒場

・フィットネステスト・08-09 総括・委員会方針・体制

7月19日・20日 協会 会議室

・フィットネステスト・09-10 方針・TL 合同会議

秋季研修会(2回)

9月23日 協会 会議室

・TL3 節までの検証・レフリー指針の確認

11月21日・22日 協会 会議室

・TL 前半レフリング検証

・レフリング指針の進捗状況

海外招聘レフリーコーチ研修会

6月 ・JWC 開催時 IRB レフリー講義

11月 ・IRB レフリーコーチを招聘 研修会開催

2月 ・NZ WAIKAT Union グラハム CEO 招聘

IRB レフリーコーチ研修カンファレンス参加

3月6日～8日 ロンドンにて開催

参加者：河野レフリー

内容：レフリーワークショップ

2. レフリー交流事業

関東・関西・九州 6名のレフリーを関東・関西協会主催の大学・社会人公式戦に派遣した。

3. 海外レフリー及びコーチの受け入れ

・5月アジア大会

・6月 JWC ・8月北海道研修(香港協会から)

・10月ブレディスロー ・11月カナダ戦・

・12月高校大会研修(香港協会から)

・2月レフリーコーチ研修(NZ・グラハム CEO)

4. 派遣事業

・U20 世界大会(日本開催)マッチオフィシャル

4名派遣 = 平林・麻生・大槻・河野

・アジア大会・その他アジア関係試合に派遣

・国内外 18 試合に派遣

レフリー = 平林・麻生・大槻・戸田・久保・河野

鈴木(律)・下村

5. アカデミー事業

・東京・大阪 計 10 回開催

・参加者：部門委員 5名 レフリー 5名

・内容：・実技(春試合・関西社会人・大学試合)

・海外派遣(NZ 1名 前田レフリー)

・日本サッカー協会アカデミー生と合同研修会 2 回開催

6. 部門会議

・5月9日 部門会議 日本協会

参加者：部門委員 17名

内容：・各部会の役割・春シーズンのレフリー割当

・日本協会・レフリーの公認方法について

・レフリー育成システムの構築について

・7月4日 全国委員長会議 日本青年館

参加者：部門委員 10名 全国委員長 47名

内容：2009年競技規則及び IRB ルーリングの伝達・安全推進講習会

・7月18日・19日 日本協会

参加者：部門委員 12名

内容：・レフリー評価について部門活動状況

・三地域レフリー交流・研修会について

・レフリー育成システムの構築について

・11月21日・22日 日本協会

参加者：部門委員 12名

内容：・各部会の活動状況・全国大会レフリー選出

・日本協会各種大会レフリー選出

・12月29日・1月1日 花園

参加者：部門委員 12名

内容：各部会の活動状況

・H22・1月11日 日本協会

参加者：12名

内容：・各部会の活動状況・TL レフリー

・日本選手権レフリー選出

2. ルール部門

1. 部門会の開催

7月9日：日本協会

参加者：部門委員 3名

内容：2009年度競技規則のうち各国協会に実施が委ねられている3項目について各部門と意見聴取した結果を検討した。

2. 実施項目

・IRB ELV の検証(U19 含む)と、その結果に基づく見解集約、IRB への提言・提出した。

・ラグビーの日本における正しい発展を目指し、IRB ヘルパー改正の提言・実現を図った。

・ルールとレフリングのギャップ解消に努めた。

・ルールの分かりやすい説明・啓蒙活動を行った。

10. 中学・高校委員会

中学生部門

中学高校委員会の中学部門は、平成22年度の中学全国大会開催に向けて、以下の会議を行った。

第1回中学部門会議 平成21年6月14日(日)場所:熊谷ラグビー場

出席者:前田理事、柴田委員長、三地域部門長、部門委員

全国中学校ラグビー大会実施に向けて検討を始めた。

全国、三地域、9ブロック、都道府県の組織化について検討した。各地域の中学校ラグビーの活動状況について確認し、実施方法などの具体案を検討できるように、さらに情報集めをすることとした。

第2回中学部門会議

平成21年7月25日(土) 場所:菅平リゾートセンター
出席者:前田理事、柴田委員長、三地域部門長、委員および各ブロック委員

第1回全国中学校ラグビー大会実施要項作成に当たって、開催時期、会場、出場校数などの検討を行った。8月の中旬、菅平、全国から8チームを出場させる、などが承認された。

第3回中学部門会議

平成21年11月14日(土) 場所:打ち合わせコーナー
出席者:柴田委員長、三地域部門長、委員および各ブロック委員

全国中学大会開催に当たっての、実施要項について検討した。予算についても検討した。

第4回中学部門会議

平成21年12月4日(金) 場所:ホテルアウィーナ(大阪)
出席者:前田理事、柴田委員長、三地域部門長
平成22年度の事業計画、予算案、全国ジュニア大会との関係などについて検討した。

第5回中学部門会議

平成21年12月30日(水) 場所:花園ラグビー場
出席者:前田理事、柴田委員長、三地域部門長、全委員およびブロック委員

全国中学大会と同時に全校スクール大会も実施することで承認された。関東の委員および長野、埼玉、東京から委員に入ってもらって実行委員会を組織し、大会の運営に当たるこの委員会の運営委員長には、関東部門長の尾崎氏にお願いした。

高校部門

1. 部会の開催

(財)全国高体連ラグビー専門部全国会議

4月11日(土) 常任委員会

12日(日) 専門委員長会

東京:ホテルフロラシオン青山

12月25日(金) 常任委員会

26日(土) 専門委員長会

大阪:ホテルアウィーナ大阪

競技力向上委員会高校部門会議

10月4日(日) 新潟県新発田市

2. 全国高体連関係

4月24日(金) 総体中央委員会(東京)

5月26日(火) 評議委員会(東京)

11月17日(火) 部長・委員長会(東京)

3月4日(木) 評議委員会(東京)

3. 大会関連

第10回全国選抜大会

平成21年4月1日(水)~7日(火)

埼玉県熊谷市:熊谷ラグビー場で開催

32チーム参加

優勝 東福岡高校61-17常翔学園高校

ジャパンセブンズ2009高校の部

平成21年4月11日(土)

東京都葛飾区:総合陸上競技場で開催

カップ優勝 九州 プレート優勝 中国

ポウル優勝 北信越

MVP 九州 高司 寛久(延岡工業高校)

監督賞 近畿 大原 摂(高田高校)

中国 小寺悠介(岡山城東高校)

北信越 三條 海(長野高校)

サニックス2009ワールドラグビーユース交流大会

平成21年4月29日(水)~5月6日(水)

福岡県宗像市:グローバルアリーナ

優勝 グレンウッド ハイスクール(南アフリカ)

第5回全国高等学校合同チームラグビー大会

平成21年7月27日(月)~30日(木)

長野県:上田市菅平高原サニアパークで開催

U17 カップ優勝 九州 プレート優勝 東北

ポウル優勝 北信越

U18 カップ優勝 近畿 プレート優勝 中国

ポウル優勝 四国

U17 ブロック優秀選手

北海道:高橋薫平 東北:清水新也 関東:小倉順平

北信越:栗山陽繁 東海:犬飼涼二 近畿:山下誉人

中国:東丈太郎 四国:宮崎心太 九州:福岡堅樹

第64回国民体育大会

平成21年10月2日(金)~6日(火)

少年の部 新潟県新発田市で開催

優勝 福岡 36-22 大分

第89回全国高校ラグビー大会

平成21年12月27日(日)~平成22年1月7日(木)

大阪:近鉄花園ラグビー場

優勝 東福岡高 31-5 桐蔭学園高

第40回全国高専大会

平成22年1月4日(月)~9日(土)

兵庫県神戸総合運動公園ユニバー競技場及びホーム

ズスタジアム神戸

12チーム参加

優勝 奈良工業高専 8-5 神戸市立工業高専

第2回U18合同チーム東西対抗戦

平成22年1月7日(木)

大阪:近鉄花園ラグビー場

東軍7-36西軍

4. 強化指導

高校日本代表選手の選抜

平成21年8月1日(土)~4日(火)

長野県:菅平高原

U17 ブロックトレセン

全国9ブロックで開催

北海道:平成21年5月2日(土)~4日(月)

東北:平成21年7月3日(金)~5日(日)

関東:平成21年6月19日(金)~21日(日)

北信越:平成21年6月26日(金)~28日(日)

東海:平成21年6月26日(金)~28日(日)

近畿:平成21年6月5日(金)~7日(日)

中国:平成21年6月20日(土)~21日(日)
四国:平成22年3月13日(土)~14日(日)
九州:平成22年3月20日(土)~22日(月)

5. 普及指導

合同チーム交流大会兼第30回普及指導講習会

平成22年3月(北海道は21年5月)

全国9ブロックで開催

スキルアップキャンプ2009

平成21年8月3日(月)~5日(水) 長野県:菅平

53校738名が参加

6. 第34回高等学校指導者研修会

平成22年1月9日(土)~11日(月)

東京:日本青年館

全国9ブロックから2名の参加、研究発表と講演、大学選手権決勝・トップリーグの観戦

7. 高校海外交流

高校日本代表海外遠征

直前合宿:平成22年3月10日(水)~12日(金)

フランス遠征:平成22年3月13日(土)~29日(月)

第1戦 3月17日(水)対フランスU17 セレクション

×23-34

第2戦 3月19日(金)対フランスU18代表

×24-25

第3戦 3月24日(水)対ポール・エスポワールU18選抜

×24-27

第4戦 3月27日(土)パリU19選抜

32-7

第17回日韓中ジュニア交流競技大会

平成21年8月24日(月)~29日(土) 韓国:木浦市

日本 78 - 5 韓国

日本 72 - 0 中国

日本 60 - 5 全羅南道

8. 高校ルール検討委員会

9. 安全対策

10. その他

女子ラグビー・セブンスのブロック及び都道府県担当者の選出。

日本代表事業委員会

<日本女子代表>

1. 女子ワールドカップアジア地区予選(15人制)

11月4日 シンガポール

参加国:日本・カザフスタン・香港・シンガポール

予選

・日本代表(35-11)シンガポール代表

決定戦

・日本代表(5-43)カザフスタン代表

女子ワールドカップ2010 イングランド大会アジア地区代表はカザフスタン代表に決定

2. 東アジア競技会 7人制(女子)

12月5日・6日 香港

第1日目第1戦 女子日本代表(0-24)女子中国代表

第2戦 女子日本代表(50-0)女子グアム代表

第3戦 女子日本代表(7-5) 女子香港代表

第2日目

準決勝 女子日本代表(19-5)女子グアム代表

1位・2位決定戦

女子日本代表(12-34)女子中国代表

女子日本代表は準優勝(銀メダル)

3. 女子7人制「香港ウイメントセブンス」

平成22年3月26日 香港フットボールクラブ

・第1戦 女子日本代表(5-12)女子香港代表

・第2戦 女子日本代表(7-24)女子タイ代表

・ポウルトーナメント 準決勝

女子日本代表(14-0)女子パプアニューギニア代表

・ポウルトーナメント 決勝

女子日本代表(35-7)女子シンガポール代表

女子日本代表が優勝

<セブンス日本男子代表>

4. ケニア・サファリセブンス

6月20日(土)・21日(日) ケニア・ナイロビ

<予選プール>

・第1戦 日本選抜(38-0)タンザニア代表

・第2戦 日本選抜(0-48)南ア・ケープタウン選抜

・第3戦 日本選抜(0-56)ケニア代表

<ポウルトーナメント準々決勝>

日本選抜(12-31)ウガンダ代表

<シールドトーナメント準決勝>

日本選抜(40-12)モロッコ代表

・決勝

日本選抜(22-0)ザンビア代表

日本選抜はシールドトーナメントで優勝

5. ワールドゲームズ 高雄セブンス

7月24日・25日 台湾 高雄

・第1戦 日本代表(5-15)アルゼンチン代表

・第2戦 日本代表(10-19)フィジー代表

・第3戦 日本代表(20-5)香港代表

・準々決勝 1戦目日本代表(0-17)ポルトガル代表

2戦目日本代表(24-29)アメリカ代表

・7位-8位決定戦

日本代表(19-5)香港代表

6. 上海セブンス

9月12日・13日 上海

<ランド1>

・第1戦 日本選抜(36-0)スリランカ代表

・第2戦 日本選抜(38-5)タイ代表

<ランド2>

・第1戦 日本選抜(17-28)韓国代表

・第2戦 日本選抜(31-5)中国代表

<カップトーナメントセミファイナル>

・日本選抜(17-5)香港代表

<カップトーナメントファイナル>
 ・日本選抜(19-42)韓国代表
 日本代表はカップトーナメント準優勝

7. IRB ボルネオセブンズ
 10月31日・11月1日 マレーシア・コタキナバル
 <第1日目・予選プール>
 第1戦 日本代表(57-0)インドネシア代表
 第2戦 日本代表(26-0)タイ代表
 第3戦 日本代表(22-0)マレーシア代表
 <第2日目・カップトーナメント>
 ・準々決勝 日本代表(34-5)タイ代表
 ・準決勝 日本代表(10-7)韓国代表
 日本代表はIRBアジアセブンズシリーズで
 カップトーナメント初優勝

8. シンガポール クリケットセブンズ
 11月7日・8日 シンガポール
 <第1日目 予選プール>
 第1戦 日本代表(27-5)
 NT Mosquitoes(オーストラリア)
 第2戦 日本代表(48-0)
 Indonesian Harimau(インドネシア)
 第3戦 日本代表(0-24) SA Vipers(南アフリカ)
 <第2日目 カップトーナメント>
 第1回戦日本代表(29-0)
 Cottlesloe(オーストラリア)
 準々決勝 日本代表(7-5)
 NSWanderers(マレーシア)
 準決勝 日本代表(12-31) Davetalevu(フィジー)
 日本代表はカップトーナメント準決勝で敗退

9. スリランカセブンズ
 11月28日・29日 スリランカ・コロンボ
 <第1日目 予選プール>
 第1戦 日本代表(33-0)イラン代表
 第2戦 日本代表(40-0)カザフスタン代表
 <2日目 カップトーナメント>
 準々決勝 日本代表(35-7)韓国代表
 準決勝 日本代表(40-5)中華台北代表
 決勝 日本代表(26-7)マレーシア代表
 日本代表はスリランカセブンズ初優勝

10. 東アジア競技大会(男子)
 12月5日・6日 香港
 第1日目 第1戦 日本代表(19-5)中華台北代表
 第2戦 日本代表(17-5)香港代表
 第3戦 日本代表(19-12)韓国代表
 第2日目 第4戦 日本代表(12-14)中国代表
 第5戦 日本代表(41-7)グアム代表
 1位・2位 決定戦
 日本代表(26-24)香港代表
 男子 日本代表は金メダルを獲得

11. IRB USA セブンズ
 平成22年2月13日・14日 アメリカ・ラスベガス
 <予選プール>

第1日目第1戦 日本代表(7-0)アルゼンチン代表
 第2戦 日本代表(5-24)イングランド代表
 第3戦 日本代表(5-22)ウェールズ代表
 第2日目 ボールトーナメント 準々決勝
 日本代表(7-19)チリ代表
 シールドトーナメント 準決勝
 日本代表(17-5)カナダ代表
 シールドトーナメント決勝
 日本代表(7-17)スコットランド代表
 日本代表はシールドトーナメント準優勝

12. IRB オーストラリアセブンズ
 平成22年3月19日・20日 アデレード
 第1日目 第1戦 日本代表(0-40)南アフリカ代表
 第2日目 第1戦 日本代表(5-54)サモア代表
 第2戦 日本代表(21-15)フランス代表
 第3日目 ボウルトーナメント準々決勝
 日本代表(15-21)スコットランド代表
 シールドトーナメント準決勝
 日本代表(22-5)ニウエ代表
 シールドトーナメント決勝
 日本代表(22-19)トンガ代表
 日本代表はシールドトーナメント優勝

13. IRB 香港セブンズ
 平成22年3月26日~28日 香港
 <予選プール>
 第1日目 第1戦 日本代表(10-12)ウェールズ代表
 第2日目 第2戦 日本代表(0-45)イングランド代表
 第3日目 ボウルトーナメント準々決勝
 日本代表(10-12)
 日本代表はボウルトーナメント準々決勝で敗退
 <U20 日本代表関係>

14. 第2回ジュニアワールドチャンピオンシップ2009
 6月5日(金)・9日(火)・13日(土)・17日(水)・21日(日)
 <出場16チーム>
 日本・ニュージーランド・イングランド・南アフリカ
 ウェールズ・オーストラリア・フランス・サモア
 アルゼンチン・アイルランド・スコットランド・イタリア
 カナダ・トンガ・フィジー・ウルグアイ
 <予選プール>
 第1戦 U20 日本代表(0-43) U20 イングランド代表
 第2戦 U20 日本代表(20-29) U20 サモア代表
 第3戦 U20 日本代表(7-12) U20 スコットランド代表
 <順位決定戦 13位~16位>
 1回戦 U20 日本代表(15-21) U20 イタリア代表
 <15位決定戦>
 U20 日本代表(54-17) U20 ウルグアイ代表
 U20 日本代表は15位
 <15人制日本代表>

15. アジア5カ国対抗2009
 ・4月25日 花園ラグビー場
 日本代表(87-10)カザフスタン代表
 ・5月2日 香港

- 日本代表 (59-6) 香港代表
- ・5月16日 花園ラグビー場
- 日本代表 (80-9) 韓国代表
- ・5月23日 シンガポール
- 日本代表 (45-15) シンガポール代表
- 日本代表はアジア5カ国対抗2009優勝
- 16. IRBパシフィック・ネーションズカップ(フィジー)
- ・6月18日 日本代表 (15-34) サモア代表
- ・6月23日 日本代表 (21-52) J・オールブラックス
- ・6月27日 日本代表 (21-17) トンガ代表
- ・7月3日 日本代表 (39-40) フィジー代表
- 日本代表は1勝3敗
- 17. リボピタンDチャレンジマッチ
- 11月15日 宮城 ユアテックスタジアム仙台
- 日本代表 (46-8) カナダ代表
- 11月21日 東京 秩父宮ラグビー場
- 日本代表 (27-6) カナダ代表

12. 安全対策推進委員会

1. 各委員会と連携し、横断的組織として活動した。
2. 「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーの普及・徹底」を掲げ、安全対策の指導を行った。
3. 重症事故の再発を防止し、重症事故撲滅を図るべく発生事故に対する調査・分析・研究を行った。
4. チーム責任者等に「重症事故撲滅対策」の意識付けを行い、チーム内においてチームの責任者が事故撲滅の啓発活動の牽引役を担い自ら事故撲滅・安全推進活動を展開できる組織的なサポートを実行した。
5. 「安全推進講習会」の開催により、「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーの普及」の徹底を図った。
「Rugby Ready」の活用
安全推進講習マニュアルDVDの作成と管理
講習会講師としてのトレーナーの育成
6. チーム登録資格要件の追加など、速やかに具体的施策を実施した。
7. 分析ソフトの導入により、重傷事故分析班の活動を更に推進した。
8. 2010年度に向け、また中長期的展望の下、新たな施策を検討、実施した。
9. 普及・啓発活動
外傷・傷害の撲滅を目指し啓発活動を継続的実施した。
・各部門と連携し重症事故の撲滅に努力した。
・日本協会のHPを利用して、タイムリーな事例を掲載して、啓発活動を行った。
10. 調査・検討
1989年からの重症事故データの継続的集計・分析
<具体的な取り組み>
・重症傷害報告書、1ヶ月後経過報告書及び2ヶ月後経過報告書を提出する体制の組織強化を行った。
・重症傷害者に関するアフターケアの方向性の検討を行

った。

11. 研修会開催
スキルアップ研修会
<具体的な取り組み>
・8月初旬、菅平において高校生及びその指導者を対象とした講習会に講師を派遣した。
各都道府県安全対策研修会の実態把握
・安全対策事業報告書を作成し、各都道府県での研修会後その提出させた。
12. メディカルサポーター管理
メディカルサポーターの養成・管理の充実を図った。
・各都道府県でのメディカルサポーターの養成状況を把握した。
・メディカルサポーター管理に関する認定証・手帳等の補充・検討した。
・メディカルサポーター更新の講習会を開催した。
13. 委員会の開催
上記事業を円滑に行うため年間5回に委員会を開催した。
14. 連携
医科学部門・ルール部門・コーチ部門・中学・高校委員会との連携を一層強化し、外傷・障害の減少を図った。

【特別委員会】

1. アンチ・ドーピング委員会

1. ドーピング検査

JADA と協力して、競技会検査(テストマッチ4検体・トップリーグ92検体・大学選手権16検体・日本選手権12検体)を実施した。陽性例は無く、ラグビー選手のクリーンさを示すことが出来た。また、IRB が主催したテストマッチ競技会検査4検体、JWC の競技会検査36検体と競技外検査82検体の実施においてIRBに協力した。円滑に検査を実施することができ、国際大会の運営能力を示すことが出来た。

IRB の検査対象者登録リスト掲載選手の居場所情報管理について、代表チーム担当者に助言を行った。

トップリーグ参加チーム及び全国大学選手権参加チームから治療目的使用に係る除外措置申請手続きに関する問い合わせに対応した。

2. 普及活動・セミナー開催・情報提供活動・関係資料の作成

トップリーグ各チームチーム及び全国大学選手権参加チームに対して、ドーピング防止関連の情報提供を行った。

チームに対するドーピング防止講習会に使用するプレゼンテーション資料を作成し、講習会を3回(トップリーグ2回・トップイースト1回)実施した。

全国高等学校大会において、JADAと協力して、参加選手に及び観客に対してドーピング防止啓発活動を実施した。

2. IRB ジュニアワールドチャンピオンシップ

日本で初めての規模の国際大会として、下記の通り実施し、総観客数 10 万人超を動員、運営面を含め大成功を収め、世界各国から高い評価を受けた。その結果、日本ラグビーの発展、2019 年ワールドカップ日本招致実現へも大きく寄与し、事業目的を達成した。

1. 期間

6月5日(金)・9日(火)・13日(土)・17日(水)・21日(日)

2. 会場

- ・東京:秩父宮ラグビー場
- ・大阪:花園ラグビー場
- ・愛知:名古屋市瑞穂公園ラグビー場
- ・福岡:レベルファイブスタジアム
- ・佐賀:ベストアメニティスタジアム

3. 競技方法

プール別(4 プール)の予選リーグ後、各プールの順位に基づく決勝リーグにより順位を決定する。
プール戦組合せは前年度順位により決定する。
14位以下のチームは翌年度、IRB ジュニアワールドトロフィーに降格する。

4. 参加チーム:16カ国

- ・日本 ・ニュージーランド ・アルゼンチン ・フィジー
- ・アイルランド ・フランス ・ウルグアイ ・イングランド
- ・サモア ・スコットランド ・南アフリカ ・イタリア
- ・フィジー ・ウェールズ ・オーストラリア ・カナダ
- ・トンガ

5. その他、各チームは開催地の青少年との交流会(レガシープラン)に積極的に参加した。

6. 試合結果

- 1位 : ニュージーランド
- 2位 : イングランド
- 3位 : 南アフリカ
- 4位 : オーストラリア
- 5位 : フランス
- 6位 : ウェールズ
- 7位 : サモア
- 8位 : アイルランド
- 9位 : スコットランド
- 10位 : トンガ
- 11位 : アルゼンチン
- 12位 : フィジー
- 13位 : イタリア
- 14位 : カナダ
- 15位 : 日本
- 16位 : ウルグアイ

7. 総観客数 : 103,012人

8. テレビ放映 : 全世界 122カ国

9. レガシープログラム参加 37団体

3. 人事委員会

1. 2年前に策定した、人事制度が適正に運用されているかどうかのモニタリングを行い、考課制度の運用が不十分であることが判明し、考課者(管理職)に対し是正と訓練を行った。

2. 2019RWC 招致決定や7人制のオリンピック復帰と云う一大イベントが決定された機会に、日本ラグビーの現状を把握し今後の持続的発展を期し、その途上でRWCを成功させ7人制を発展するためのバックボーンとなる「日本ラグビーの中期戦略」策定する、4つの分科会と戦略室を設置し年度内に戦略の内外への発信を行い、その為の人材の配置をリードした。

3. 2019RWC 招致に伴い IRB(RWCL)の JRFU への連携活動の受皿となるべき「2019RWCL 日本側 OC」を編成し対応の準備を行った。

この内容については3月10日(水)に「人事委員会」を召集し委員の意見を聴取し基本方針の是認を得た。

4. 監査委員会

委員会の開催

日時 : 平成 22 年 1 月 24 日(日) 12:30 ~ 14:00

場所 : 日本協会 会長室

出席者 : 矢部理事・会計役・岡本理事・事務局長
袖山監事

小林・市村・田治・峯本・納屋 各委員

内容 : ラグビー協会の課題の取り組み状況
公益法人化への取り組み

5. 施設環境整備委員会

1. 秩父宮ラグビー場改修工事

- ・6月開催のジュニアワールドカップ開催にそなえてスタンドの改修工事を実施した。
- ・スタンド下の選手更衣室、シャワールーム等の改修
- ・同上の医務室の改修とドーピング検査室の新設
- ・同上のメディアルームの改修と会議室等新設
- ・3階貴賓室の改修とラウンジの新設
- ・記者席の改修

2. 2019RWC・秩父宮ラグビー場開催計画の推進

・2019RWC 秩父宮ラグビー場の開催に向けた、企画書の作成を行った。

委員会 開催 4回 作業部会 開催 16回

・2010年4月に企画書完成と報告を行う。

6. 登録者傷害見舞金委員会

1. 三地域協会で実施している登録者傷害見舞金の統一化を図った。

2. 全国共通の「(財)日本ラグビーフットボール協会登録者傷害見舞金制度要綱」を作成し三地域協会を通じて

- 全登録チームに配布した。
- 新公益法人法に基づく今後の運用方法の検討に入った。
 - 委員会規約の細部の検討を行い、理事会にへの提言を行った。
 - 傷害保険導入の検討に入った。(プロジェクトを立ち上げ継続検討課題とした)
 - 見舞金給付表の一部見直しを行うと共に継続検討項目とした。(ドクターに継続検討を依頼した)
 - 平成21年度版を改定し、22年度配布用の「(財)日本ラグビーフットボール協会登録者傷害見舞金制度要綱」を作成した。

九州ラグビーフットボール協会

1. レフリー委員会

- 各県委員長会議:
6月19日:鹿児島 12月18日:福岡 2月19日:福岡
- レフリー研修会・認定講習会
- 九州地区トップレフリー研修会(7月~8月・湯布院)
- 九州地区B級レフリー研修会、認定講習会(8月・筋湯)
- 各県巡回指導研修会(1月~3月・各県)
- 有望レフリー発掘事業(5月~6月・沖縄・宮崎)
- 若手レフリー研修会(年2回実施・長崎・福岡)

2. 社会人委員会

- 第47回木元杯7人制大会(4月5日・福岡)
優勝 Aパート 福岡サニックス Bパート かぶと虫クラブ
- 第29回国体ブロック大会(8月22日~25日・長崎)
決勝 熊本県 30 7 福岡県
- 第38回トップキュウシュウリーグ戦(9月~12月各地)
Aリーグ 1位 マツダ 2位 中国電力
Bリーグ 1位 山形屋 2位 新日鐵八幡
- トップキュウシュウリーグA・B入替戦(12月 福岡)
三菱重工長崎(残留) 47 5 新日鐵八幡
三菱自動車水島(降格) 22 24 山形屋(昇格)
トップリーグチャレンジマッチ(1月・広島・花園)
1位 Gr マツダ 0 43 NTTコミュニケーションズ
マツダ 0 55 豊田自動織機
2位 Gr 中国電力 17 81 横河武蔵野
中国電力 0 137 NTTドコモ
- トップ九州リーグ代表者会議(2月・福岡)

3. クラブ委員会

- 第28回九州感大会(6月27、28日・宮崎)
- 第5回九州トップクラブリーグ(9月~12月・各地)
Aグループ 1位 帆柱クラブ 2位 かぶと虫クラブ
Bグループ 1位 玄海タノガワ 2位 熊本サンデーズ
- 九州トップクラブリーグA・B入替戦(12月 熊本)
甲南クラブ(残留) 68 0 熊本サンデーズ
- 第35回全九州クラブ・実業団大会(11月14、15日・長崎
29日決勝 福岡)
決勝 日本特殊陶業 22-10 とうしろクラブ
- 各県委員長会議開催(6月・福岡、11月・長崎)

4. 大学委員会

- 学生強化およびリーグ講習会(5月22日~24日・福岡)
- 第48回九州商経大学大会(6月20日~23日・福岡)
決勝 九州共立大 53 12 鹿児島大
- 第59回九州地区大学大会(6月26日~30日・福岡)
決勝 福岡大 31 7 九州共立大
- 第17回九州学生リーグ(9月~11月・福岡他)
部 1位 福岡大 2位 九州共立大
部 1位 西南学院大 2位 鹿児島大
- 第9回九州地区対抗大学大会(11月21日~24日・熊本)
決勝 大分大 29 24 佐賀大
- 学生リーグ・部入替戦(12月6日・福岡)
長崎大(降格) 12 36 鹿児島大(昇格)
九州産業大(降格) 19 73 西南学院大(昇格)
- 学生リーグ・部入替戦(12月6、12日・福岡、大分)
琉球大(残留) 46 - 15 佐賀大
立命館アジア太平洋大(降格) 13 19 大分大(昇格)
- 各県委員長会議開催(7月・12月・福岡)

5. 高専委員会

- 高専チームリーグ講習会(4月3日~4月5日・八代)
- 第18回九州高専新人大大会(5月9日~10日・福岡)
15人制 佐世保 (優勝) 55 12 都城
7人制 有明(優勝) 24 10 北九州
- 各県委員長会議開催(11月・熊本)
- 第46回九州高専大会(11月14日~17日・熊本)
決勝 久留米高専 22 7 佐世保高専

6. 高校委員会

- 九州協会会長招待ラグビー(4月11日・福岡)
九州高校代表 17 12 東日本高校代表
- 2009ワールドユース交流大会(4月29日~5月6日・福岡)
- 第62回全九州高校大会(6月20日~23日・鹿児島)
1位 Gr 決勝 東福岡 22 14 長崎南山
2位 Gr 決勝 筑紫 41 5 長崎北陽台
- 第29回国体ブロック大会(8月22、24日・長崎)
Aブロック 決勝 福岡県 38 6 佐賀県
Bブロック 決勝 長崎県 10 0 熊本県
- 第89回全国大会各県予選(9月~各県)
- U16・U17九州交流大会(12月19、20日・福岡)
- 2010ワールドユース交流大会予選会(1月2~5日・福岡)
決勝 伏見工業 19 - 5 常翔啓光
- 第32回全九州高校新人大大会(2月20日~23日・福岡)
1位 Gr 決勝 東福岡 62 0 佐賀工業
3位戦 長崎北 57 - 7 延岡星雲
2位 Gr 決勝 長崎北陽台 45 - 15 九州学院
- その他強化合宿(夏・春)・指導会・各県委員長会議
- 九州地区高校普及指導講習会 10人制大会
(3月21日~22日・沖縄)

7. コーチ委員会

- 各県委員長会議(7月、12月)
- 強化・育成コーチブラッシュアップ研修会(6月・佐賀・福岡)
- 九州協会トップチームコーチ会議(10月・福岡)
- 新スタートコーチブラッシュアップ研修会(7回・福岡・沖縄)

- ・新スタートコーチ認定講習会(10回・各県)
 - ・育成コーチ講習会(2月・福岡)
8. 中学生委員会
- ・第31回新島杯九州ジュニア大会
(7月31日～8月2日・鯛生)
AGr 決勝 長与YR(長崎) 31 0 かしいYR(福岡)
BGr 決勝 鞘ヶ谷RS(福岡) 17 5 長崎RS(長崎)
 - ・第22回新島旗九州中学校大会(8月2日～4日・鯛生)
Aパート 決勝 城南中(福岡) 43 0 美東中(沖縄)
Bパート 決勝 帯山中(熊本) 28 19 櫛中(宮崎)
 - ・第10回九州ジュニアラグビー大会(10月10日～12日・熊本)
決勝 福岡県 33 21 長崎県
 - ・第11回九州ジュニアジャンボリー大会
(1月23・24日・福岡、2月27・28日・鹿児島)
 - ・各県委員長会議(4月・8月・10月)
 - ・ジュニアインストラクター会議(10月10日～12日・熊本)
9. 普及委員会
- ・普及育成委員会(4月)
 - ・タグフェスタIN
大分(5月)・鹿児島(5月)・佐賀(5月)・宮崎(9月)
熊本(10月)・長崎(10月)・沖縄(11月)・福岡(11月)
沖縄(3月)
 - ・タグ指導者講習会
鹿児島(6月)・宮崎(6月)・熊本(7月)・沖縄(7月)
長崎(7月)・福岡(7月)・大分(8月)・佐賀(8月)
 - ・第36回少年ラグビー交歓会(8月14日～16日・阿蘇)
 - ・ミニ・ラグビー交流大会
第10回西九州交流大会(9月26日・佐賀)
第10回東九州交流大会(11月1日・宮崎)
沖縄県交流大会(11月29日・沖縄)
南九州交流大会鹿屋カップ(2月7日・鹿児島)
 - ・ミニ・ラグビー指導者講習会
熊本(4月)・長崎(6月)・大分(7月)・福岡(9月)
宮崎(9月)・鹿児島(10月)・佐賀(10月)
 - ・はじめてのラグビーボール
福岡(4月)・鹿児島(4月)・宮崎(5月)・熊本(7月)
長崎(9月)・沖縄(3月)
 - ・第7回沖縄県女子タグラグビー大会(11月29日・沖縄)
 - ・第4回九州女子タグラグビー大会(12月6日・鹿児島)
 - ・サントリーカップ全国大会予選(11月～1月・各県)
熊本(11月)、佐賀(11月)、宮崎(12月)、大分(12月)
長崎(12月)、鹿児島(12月)、福岡(12月)
沖縄ブロック大会(1月17日・沖縄)
九州ブロック大会(1月24日・佐賀)
10. 安全対策委員会
- ・安全推進講習会(2月～5月・福岡他各県)
 - ・安全推進キャンペーン(7月～8月・各地)
 - ・平成22年度安全推進講習会伝達(2月14日・福岡)
 - ・安全対策委員長会議(3月6日)
 - ・メディカル委員会との合同総会(3月6日・福岡)
11. 強化・セレコン委員会
- ・社会人・学生試合視察(9月～1月)
 - ・強化・セレコン委員会(1月・福岡)
 - ・クラブ選抜対学生選抜試合(3月14日・福岡)
クラブ選抜 17 42 学生選抜
 - ・第60回朝日招待ラグビー (3月14日・福岡)
九州代表 36 8 帝京大学
 - ・九州代表試合関係
三地域対抗 九州 12 60 関西(3月21日・福岡)
九州 10 34 関東(3月28日・東京)
12. 総務委員会
- ・会員名簿の作成(8月)
 - ・主要スケジュール・メンバー表の作成・配布
 - ・九州・各県公式試合の編成・発行
 - ・各新聞における関係記事のスクラップ
13. 広報委員会
- ・日本協会機関誌「協会だより」への投稿(年5回)
 - ・九州協会ホームページの更新(都度更新)
 - ・定期的記者会見、懇親会の実施(8月)
 - ・トップリーグ共同記者会見の開催(8月)
 - ・広報委員長会議(9月)
 - ・各メディアへの情報発信、情報交換(随時)
 - ・各メディアとの意見交換(11月)
 - ・公式戦記者会見、撮影・観戦記等ホームページ案内
(4月～3月)
14. メディカル委員会
- ・マッチドクター派遣 約1,500試合(4月～3月・各県)
 - ・トップリーグ・メディカルコントロール(19試合・開催県)
 - ・九州協会安全推進伝達講習会(2月14日)
 - ・総務委員会(8月30日・福岡)
 - ・安全対策委員会との合同総会(3月6日・福岡)
 - ・日本代表チーム帯同医師派遣
日本代表、U20日本代表、高校日本代表
15. 個人登録制度(傷害見舞金共済運営事業)
- <登録>
- ・登録状況 500チーム(-1) 17,603人(-412)
- <傷害見舞金>
- ・傷害審査件数 115件(-9)内、重症事故 3件
 - ・見舞金 3,060千円(+150千円)
 - ・審査委員会は年12回開催